平成 30年　1月　30日

研修報告書

氏名：力石浩志

所属：千葉大学医学部附属病院　遺伝子診療部

研修期間：平成　29年　10月　30日　～　平成　29年　11月　24日

研修場所：東京女子医科大学附属遺伝子医療センター

研修内容：

　遺伝カウンセリング、遺伝病外来 4-8件/日

　遺伝学的検査 数件

　抄読会　　　　　　　　　　　　　　　 期間中1回

　HBOC講演会　　　　　　　　　　　　 期間中1回

　科内カンファレンス　　　　　　　　　 週2回

　周産期カンファレンス　　　　　　　　 期間中１回

研修成果：

　東京女子医科大学附属遺伝子医療センターで４週間の研修を行った。研修期間中は上記のような経験をすることができた。

遺伝カウンセリングは、センターの特徴である神経筋疾患が多数を占め、千葉大学での経験と違った分野の遺伝カウンセリングを体験することができ、非常に有用であった。また、産科領域における無侵襲的出生前遺伝学的検査NIPTの遺伝カウンセリングを小児科出身の臨床遺伝専門医が行うことが多いという特徴があり、産科の臨床遺伝専門医が行なっている千葉大とは異なる雰囲気を感じることができた。遺伝カウンセリングは別ブースで2-3件が並行して行われていることが多く、短期間で自分が研修したい症例を選んで陪席・参加することが可能で、それは事前の科内カンファレンスで予定を組むことができる。また、入れなかった遺伝カウンセリングの内容も後日の科内カンファレンスで内容を把握することができ、多数の経験を積むことができた。さらに、神経筋疾患に関しては、診断前後の遺伝カウンセリングだけでなく、長期的なフォローアップも行なっており、診断時に遺伝カウンセリングを受けた患者がどのような経過をたどるのかも間近に見ることができた。

以前にインテンシブコースを履修した他科、他施設の医師が遺伝カウンセリングをしに来ることもあり、そのような身近な先人の遺伝カウンセリングに同席させていただく機会も非常に貴重だった。

カンファレンスルームの隣にあるラボでは、脊髄性筋萎縮症の出生前遺伝学的検査を行なっており、それも経験することができた。

その他（感想・要望・反省点、等）：

　４週間の遠距離通勤は初めての経験で大変ではあったが、それを上回る経験ができたと　　感じている。女子医大は女性の多い職場で、特有の仲の良さ、アットホームさ、そこからくるカウンセリングのきめ細やかさなどもあり、新鮮であった。遺伝診療は施設ごとにそれぞれ特徴が異なる部分が大きく、自分の所属施設以外の施設で研修をすることの重要性を感じた。